



WAZA

World Association
of Zoos and Aquariums



**REVERSE
THE RED**

WAZA × RTR **短編ガイド**

いかにしてあなたの動物園、水族館が
RtR運動に加わり、生物多様性の損失
を食い止めることができるか

目的

WAZA RtR

短編 ガイド

動物園と水族館は、生物多様性の損失を防ぎ、絶滅危惧種を保全する上で重要な役割を果たしています。

この課題の緊急性を認識し、世界動物園水族館協会（WAZA）、国際自然保護連合（IUCN）の種保存委員会（SSC）およびその他のパートナーは、この課題の緊急性を認識し、共同で「Reverse the Red（RtR）」を立ち上げました。これは、種の保全に向けた行動を広める取り組みです。

この短編ガイドは、動物園や水族館がRtRに参加し、種の保全に貢献し、私たち動物園水族館がもっている独自の技術や影響力を最大限に活用する方法を明確にするために作成されました。皆様が共感し、我々の運動に加わってくださることを願っています。

みんなで力を合わせて、

Reverse the Red

を成し遂げましょう

Writing team

Jenny Gray, Zoos Victoria
Judy Mann-Lang, Two Oceans Aquarium
Paula Cerdán, WAZA
Tania Kahlon, WAZA

Editors

Paula Cerdán, WAZA
Tania Kahlon, WAZA

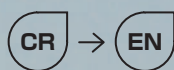
Reviewers

Theo B. Pagel, Cologne Zoo, Chair of the
WAZA RtR Committee
Karen Fifield, Wellington Zoo
Helen Lockhart, Two Oceans Aquarium
Megan Joyce, Reverse the Red

Layout and Design

Ink Design Publishing Solutions,
Cape Town, www.inkdesign.co.za

Cover image



マウンテンゴリラ

(*Gorilla beringei beringei*)

© Jeremy Stewardson/Unsplash



アラビアオリックス (*Oryx leucoryx*)

© Silvia Razgova

日本語版製作

(公社) 日本動物園水族館協会 教育普及委員会

(株) 海遊館 長野悦子

目 次

01

Reverse the Redとは？

02

WAZAメンバーの
生物多様性への取
り組み

03

「Reverse the
Red (RtR)」を
我々動物園・水族
館へもたらそう

04

数を増やし、成育
を助け、Reverse
the Red を進め
よう

05

行動を起こそう



01

REVERSE THE RED とは？

「Reverse the Red (リバース・ザ・レッド)」 は、世界中の動物園、水族館、植物園、保全団体、保全に関する語り部、そして種の保全に関する第一線の専門家を集結させている世界的な取り組みであり、IUCN絶滅危惧種レッドリストに示されている種の絶滅傾向を逆転するための協力とアクションの促進を目的としています。これらの組織が協力することで、絶滅危惧種の保護に強力な影響力を持つことができ、より明るく、より持続可能な地球の未来に貢献することができるのです。動物園や水族館は、この運動の重要なパートナーであり、生物多様性の損失を食い止めるために不可欠な技術、資源、地域社会への影響力を有しています。

「Reverse the Red (RtR)」 は、「世界動物園水族館協会 (WAZA)」、「International Union for conservation of Nature's: 国際自然保護連合 (IUCN) 種保全委員会 (SSC)」、および他の保全パートナーとの協力から始まりました。この協力関係は、IUCN SSCの目標を達成する上で、動物園、水族館、植物園が重要な役割を果たすとの認識を受けて始まりました。

RtRは、動物園と水族館の領域を超えて連合体へと発展し、種を保全し生物多様性の損失を食い止めるための手段とパートナーシップを提供しています。広い範囲より生物多様性専門家を招集することで新しく多様なボランティアNational Species Survival Centers and National Expert Groups (国家種保存センターと国家専門家グループ) を設立することを目指しています。この組織は、各国の政府を支援し、評価、計画、行動における科学に基づく意思決定の促進を目的としています。

種数の減少と生物多様性への脅威の増大は、緊急の行動を要する問題です。RtRは世界中のリーダーや意思決定者ならびに一般の人々へ、種の絶滅の傾向を逆転させ、回復を促進するための行動を起こす意欲と関心を呼び起こすことを目指しています。



hhmi | Tangled Bank Studios ON THE EDGE



RtR執行委員メンバー

動物園、水族館、RTR、および昆明・モンリオール生物多様性枠組 (GBF) / 生物の多様性に関する条約 (CBD)



Convention on
Biological Diversity

動物園と水族館は、生物多様性保全分野における主要なパートナーとして、「**昆明・モンリオール生物多様性枠組 (GBF)**」で設定された世界目標、特に人間による絶滅を食い止め、種の保全状況を改善することを目指す「ゴールA」と「ターゲット4」に沿って取り組みを進めることが重要です。

動物園と水族館は、種の保存への情熱、動物の飼育繁殖のために開発された技術、施設を活用し、そして多くの来園館者へ発信することで、最終的に生物多様性に大きな変化をもたらし、重要な貢献をすることができるのです。

GBFのゴールA規定

「人間による既知の絶滅危惧種の絶滅を阻止し、2050年までにすべての種について単位時間あたりに絶滅する割合（絶滅率）とそのリスクを10分の1までに軽減し、在来野生種の個体数を適正かつ回復可能なレベルにまで引き上げること。」

ターゲット4がゴールA達成方法を規定する

「生息域内及び生息域外保全と持続可能な管理の実践等を通じて、既知の絶滅危惧種の人による絶滅を阻止するとともに、絶滅リスクを大幅に減らすために種、特に絶滅危惧種の回復と保全と、在来種、野生種及び家畜・栽培種の個体群内及び個体群間の遺伝的多様性を維持及び回復して適応能力を維持するための緊急の管理行動を確保するとともに、共存に向けて人間と野生生物の軋轢を最小化するべく人間と野生生物の相互干渉を効果的に管理する。」

02

WAZAメンバーの 生物多様性への 取り組み

WAZA（世界動物園水族館協会）は、2015年の**保全戦略**を通じて、昆明・モントリオール生物多様性枠組とその目標を支援するために、主要な動物園や水族館の活動を活用する基盤を築きました。これは、人間が生物多様性に対して引き起こした脅威に対処するためのものです。2022年の年次総会では、WAZAメンバーが**WAZA決議77.2「生物多様性の結果を変える」**を承認し、生物多様性の継続的な損失への緊急対応の必要性や、2011年から2020年の「国連生物多様性の10年」が事実上この問題への取り組みに失敗してきたと強調しました。IUCNレッドリストにおいて40,000種以上が絶滅の危機に瀕している（例 深刻な危機、危機、危急）という事実は、WAZAとそのメンバーにとって重大な懸念事項です。

コクカンチョウ
(*Gubernatrix cristata*)
の野生復帰（放鳥）
© テマイケン財団

この問題に対処するために、WAZAメンバーは「Reverse the Red」運動に参加することができ、その方法についてはこの短編ガイドで詳しく説明されています。



種の保全状況の評価

保全状況の改善は成功の重要な指標であり、それは保全活動が特定の種や個体群に対する良好な影響を与えていることを示しています。「IUCNレッドリスト」の評価を、保全計画対象種の選定や適切な保全戦略策定の指針として使用することは、絶滅のリスクに真の変化をもたらすために、極めて重要です。

「IUCNレッドリスト」 を保全状況の主要な指標として認識することは、世界中の種の保全状況を追跡・監視し、最も必要とされる分野での保全活動の優先順位付けを行ううえで不可欠です。さらに、「保全状況の改善 : *improvement in conservation status*」 を成功の指標として使用することが、継続的な保全活動の促進、奨励の助けとなり、最終的には生物多様性や生態系にとって、より良い結果をもたらします。

種の現状を評価することは、「保全状況の改善」に向けた効果的なプログラムを開発するための重要な第一歩です。



「IUCNレッドリスト」 は、種の保全状況に関する最も権威ある情報源の1つです。動物園や水族館は、これらの評価を保全プログラムの基礎として使用することが奨励されています。これらの評価には、種の世界的な分布や直面している脅威をはじめ、種の現時点で入手可能な最良の知見に関する貴重なデータが含まれているからです。絶滅リスクに真の変化をもたらすためには、選定された種の保全活動が、レッドリストまたは「グリーンステータス : *Green Status*」 の分類における少なくとも1つの状況改善につながる可能性が極めて高い活動に焦点を当て、持続的な変化の確証を得ることが求められます。したがって、保全プログラムの対象種を選定し、適切な保全戦略を策定する際には、IUCNレッドリストの評価を指針として活用することが不可欠です。

ケーススタディ

漁業管理によりタイ科の仲間：セブンティフォー（Seventy-four Seabream）の回復に希望がもたらされる | SAAMBR

1910年、南アフリカ・ダーバン港を拠点とし、年間1,000トンを超えるセブンティフォー（Seventy-four Seabream : *Polysteganus undulosus*）が釣り船により捕獲されていました。しかし、1980年代後半には、この人気の食用魚の商業用釣り船による年間漁獲量は10トン未満に激減していました。南アフリカ海洋生物学協会（SAAMBR）の科学者たちは、この魚の生物学的研究を開始し、その個体数が1960年代初頭までに激減し、1990年代半ばには漁獲前である、1900年初頭の5%未満まで減少していたことを明らかにしました。これらの個体群評価と漁獲量のデータは、2014年に発表されたこの本種の最初の「IUCNレッドリスト」の評価の作成に利用され、セブンティフォーは20世紀における劇的な個体群減少により、深刻な危機（CR）に指定されました。

特定の種の漁業規制（例：1日当たりの漁獲制限、最小サイズ制限、禁漁期）を含む一連の管理措置が1984年に初めて実施され、1992年に強化されました。これらの措置が効果を示さなかったため、1998年に南アフリカ水域におけるセブンティフォーの捕獲禁止措置が実施されました。さらに、過去50年間にわたる南アフリカ沿岸に複数の大規模な漁獲禁止海洋保護区（MPA）が設立されてきました。

セブンティフォーの個体群は、東ケープ州とクワズール・ナタール州沿岸で実施された遠隔操作型無人潜水機（ROV）と餌付き遠隔水中ビデオを用いた漁業に頼らない調査での最近の観測結果、さらに漁師からの若齢魚の増加に関する事例報告から、徐々に回復していると考えられ、この深刻な危機にある種の保全への取り組みが成功を収めているとされています。したがって、セブンティフォーに関する最近の再評価では、現在本種の漁獲死亡率が低く、個体数が回復傾向にあることを踏まえ、その保護状況を「危機（EN）」に改定することが推奨されています。

CR → EN

タイ科の仲間：セブンティフォー（Seventy-four Seabream）の写真

©Judy Mann



ケーススタディ

ズーゴネティクス・テキーラ (*Zoogoneticus tequila*) の再導入 | チェスター動物園

ズーゴネティクス・テキーラ (Tequila Splitfin : *Zoogoneticus tequila*) は、2001年に50匹未満の成魚からなる小さな個体群が発見されるまで、野生では絶滅寸前でした。IUCNレッドリストでは2009年に深刻な危機 (CR) の評価が掲載されました。しかし、その個体群も数年後には絶滅し、現在は人間の手による飼育に頼るのみとなりました。

IUCN「**絶滅のおそれのある野生動植物種の野生復帰に関するガイドライン**」(2013年)に従い、テウチトラン(メキシコ西部・ハリスコ州テウチトラン川流域やラス・アグアス湖周辺)の生態系回復のための計画は、イギリス、ドイツ、フランスのWAZA会員をはじめとする複数のパートナーからの資金援助により策定されました。ズーゴネティクス・テキーラの初期個体群はチェスター動物園及びこのプロジェクトの主要な実施機関であるミチョアカン・デ・サン・ニコラス・デ・ヒダルゴ大学から提供されました。初期段階の回復計画において、可能な限り自然な条件を再現した大規模なため池を造成し、再導入後、個体数は2年間で指数関数的に増加し、この池の全個体数は2016年までに約10,000匹となり、その後安定しました。

こうした保全努力により、レッドリストのレベルは2019年に「危機 (EN)」に変更されました。現在、野生下での個体数は800匹を超えると推定されています。



再導入されたズーゴネティクス・テキーラ (*Zoogoneticus tequila*) の個体群のモニタリング

写真 © ミチョアカン・デ・サン・ニコラス・デ・ヒダルゴ大学



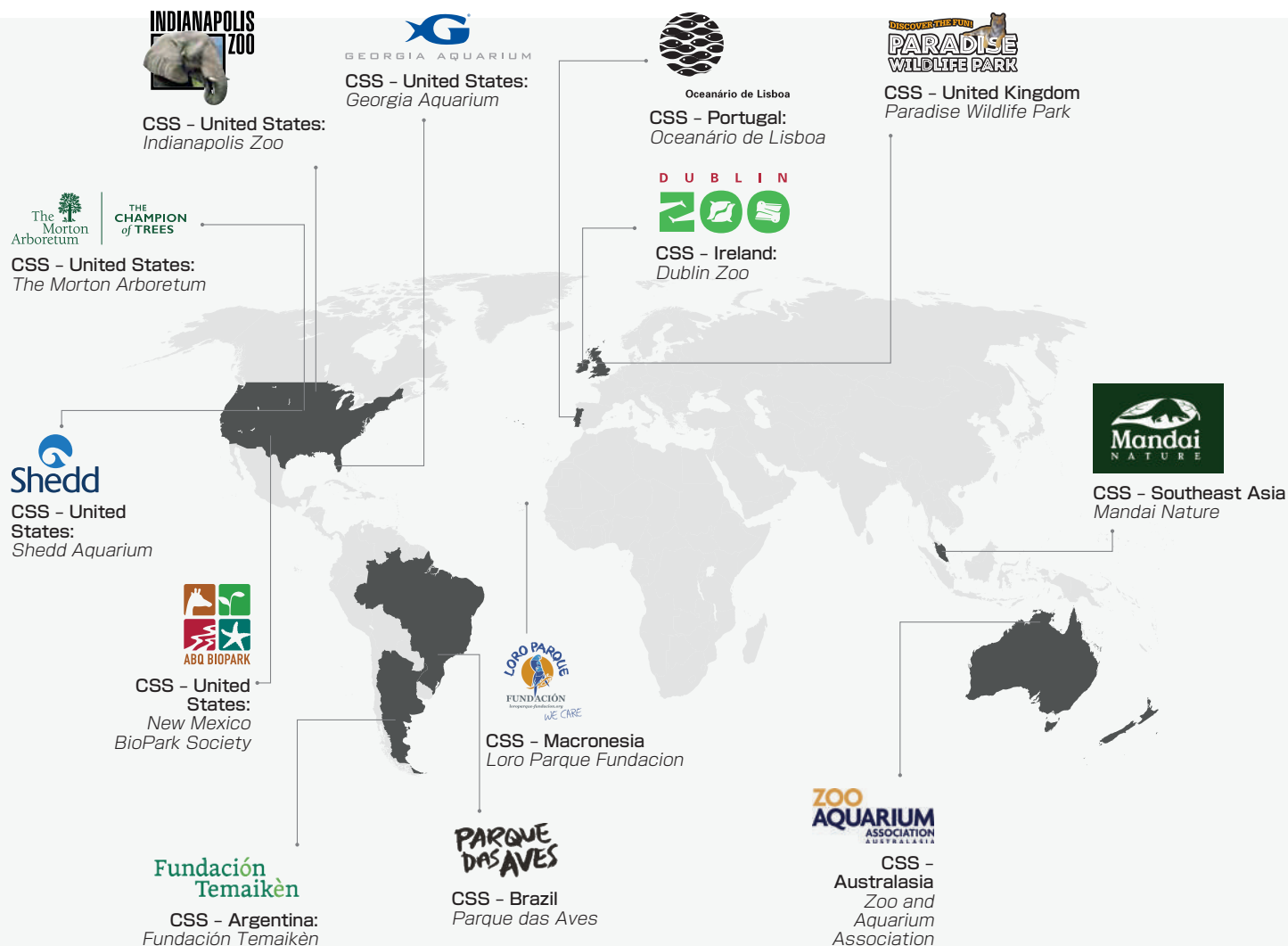
放流する個体の選択



メソコスム(自然界の縮図を人工的に再現した環境)でのサンプル個体の予備再導入

種保存センター（The Center for Species Survival）

種保存センター（CSS）は、IUCN SSCと協力して設立され、世界の専門家ネットワークと協働して、重点種の保全活動を促進します。センターは絶滅危惧種の回復を評価し計画を策定するための専任スタッフを配置します。専門施設、専門知識や技術、協働ネットワークを提供することで、絶滅危惧種の保護と回復に重要な役割を果たします。



CSS 2023年5月31日現在

CSSには以下の主要な機能があります：

- IUCNレッドリスト掲載種の状況を評価すること
- 生息域内および生息域外の優先事項、双方にわたる保全行動計画の策定のために、主要なステークホルダーを招集すること
- 種の回復に向けて協力関係を促すため、自然保護活動家、地域社会、各国政府を結びつけること
- 種の存続を確保するための施策を実施すること

CSSは、絶滅危惧種の保護に向け、複数の組織や機関が連携する共同保全活動に取り組んでいます。

動物園や水族館はCSSと協力することで、重点種や重点地域に特化した種の保全に取り組むことが可能です。

CSSを設立したい動物園や水族館は、IUCN SSCまでご連絡ください：

ssc@iucn.org 

ケーススタディ

ABQバイオパーク 種保存センター | ニューメキシコ・バイオパーク

ABQバイオパークは、3つのバイオパーク施設それぞれに常勤の種保存担当官を配置し、種保存担当官で構成されるチームを設立しました。水生生物種保存担当官は、水族館と連携を行い、メキシコと中央アメリカ全域における淡水魚の絶滅リスク評価を主導し、特定された優先種の回復努力に重要な役割を果たしてきました。植物種保存担当官は、植物園と連携を行い、薬用植物の保全状況に関する理解を深めることに貢献し、無脊椎動物種保存担当官は、動物園の優先保全フラッグシップ構想の一つと連携し、北米における花粉媒介種の保全に注力しています。

このチームは現在、他のパートナー組織に所属する種保存担当官のネットワークに対し、研修と管理支援を提供し、世界的な主導的役割を果たしています。ニューメキシコ・バイオパーク協会が資金提供をする彼らの活動の広がりや、ABQバイオパークがIUCNレッドリストのパートナーになることを可能にし、その結果、IUCNレッドリストの理事に就任しました。



アルバカーキ・バイオパークの種保存センターのチーム ©ABQ バイオパーク

IUCN SSC東南アジア地域種保存センター |
マンダイ・ワイルドライフ・グループ



サバ州サイチョウワークショップ ©Sanjitpal Singh



キガシラヒヨドリ
(Straw-headed bulbul)
© Mandai Wildlife Group

IUCN SSC種保存センター：東南アジア（CSS SEA）は2022年に設立され、マンダイ・ワイルドライフ・グループの保全部門であるマンダイ・ネイチャーが運営主体となっています。CSS SEAは、IUCN SSCの「**評価・計画・行動**」という保全アプローチに基づき、地域内の絶滅危惧種に対する評価、計画、行動を促進することを目的としています。

評価：シンガポールと東南アジアにおける種評価のための研修と支援を提供することで、IUCNレッドリストの掲載プロセスを強化します。

計画：マンダイ・ネイチャーが運営する保全計画専門家グループ（CPSG）東南アジアリソースセンターを通じて、CSS SEAは、生息域内保全と生息域外保全、全体にわたるワン・プラン・アプローチ（One Plan Approach）を活用して、重点種の保全ニーズを整合させるための、種別計画の取り組みを継続的に広げています。

行動：保全活動の強化が急務である現状に対応するため、CSS SEAは現代的で統合的な保全ツールと保全のためのワン・プラン・アプローチを活用し、東南アジアの絶滅の恐れのある種の生存に直接的かつ積極的な影響を与えるパートナーシップと活動を支援しています。CSS SEAはIUCN SSC Asian Species Action Partnership（ASAP）を通じて、東南アジアに生息する「深刻な危機（CR）」の陸上および淡水脊椎動物に対するASAP種への保全行動を優先し支援します。

CSSは、種の回復、生息地の回復、違法な野生生物取引の撲滅、地域コミュニティの保全活動への参加促進など、多様な保全優先事項に焦点を当てています。東南アジア全域のプロジェクトを支援し、保全活動の成功と持続可能性を確保するため、資源、技術的専門知識、助言を提供しています。

マンダイ・ネイチャーの専門知識と資源を活用し、SSCの専門家による世界的なネットワークと組み合わせることで、CSSは東南アジアの生物多様性保全に大きなプラスの影響を与えることを目指しています。彼らの協働的な取り組みが、この地域の独自の生態系と生物種を次の世代のために守ることにつながるでしょう。

保全状況改善アプローチ

保全状況改善（CSI）のアプローチは、保全活動における戦略的かつ重点的な手法であり、保全状況の改善可能性が最も高い種を特定するとともに、回復を促進し成果を伝える計画策定を目指し、さらに政治的意志と資源配分における推進力を生み出す枠組みを提供します。

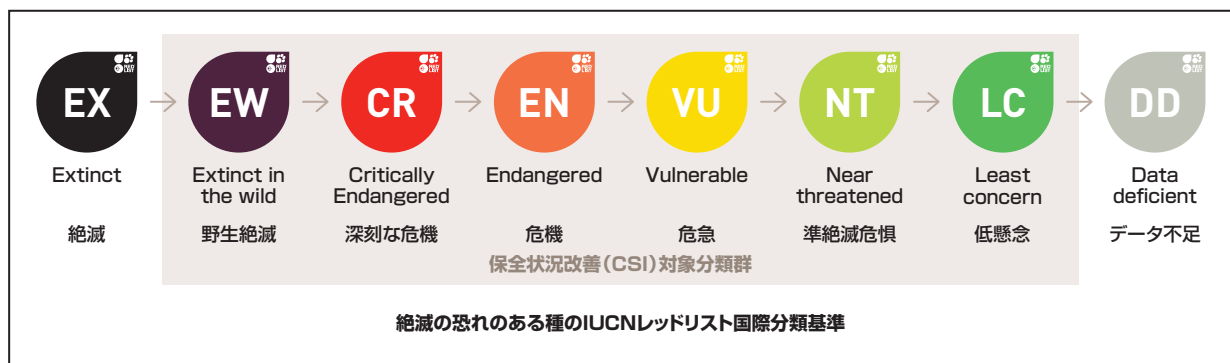
Reverse the RedのCSIアプローチは、種に対する主要な脅威の軽減または阻止、種の回復を目的とした効果的な対策の実施、あるいはその両方に焦点を当てています。成功した場合、種の絶滅リスクの低いカテゴリーへの移行、もしくは少なくとも回復への一歩となります。

CSIアプローチは、レッドリストの基準の閾値に近い種を対象にすることで、絶滅から回復へ導くために必要な段階的变化を明確にし、この変化を実現するために必要な資源の理解を深めると同時に、その過程での成功事例を伝達するものです。CSIアプローチは、明確に定義された目標、段階、成功の可能性を通じて、政治的意志と資源配分に勢いをもたらします。

動物園と水族館が、飼育下にある種や、生息域内で支援しているプロジェクトのための、保全状況改善計画を作成する際に役立つ**ガイドライン**が策定されました。この文書は、実践者が保全計画プロセスに組み込むための5つの段階からなる戦略を提供し、その成果を測定、伝達し、より大きな保全効果と社会的影響をもたらすことを可能にします。



CSIガイドラインの
ダウンロードは
こちら



CSIアプローチにより提案されたIUCNレッドリストカテゴリーにおける段階的变化。

EW、CR、EN、VU、NTカテゴリーに分類される分類群は、回復を支援するための種固有の対策が一般的に必要である。

ケーススタディ

ヒガシシマバンディクートの保全状況の変更 | ズーズ・ビクトリア (Zoos Victoria)

1989年、ヒガシシマバンディクート (*Perameles gunnii*) の総個体数は150頭未満であり、2013年にはオーストラリア本土において野生絶滅 (EW) と宣言されました。ズーズ・ビクトリアは、30年間にわたり実施してきた保全プログラムによりヒガシシマバンディクートの保全状況が「野生絶滅」から「危機 (EN)」へ再分類されました。この絶滅危惧種の保護状況の変更はオーストラリアでは初めてのことでした。このことにより、ズーズ・ビクトリアは30年間にわたる保全プログラムを終了できることになりました。



ヒガシシマバンディクート (*Perameles gunnii*)
© ズーズ・ビクトリア

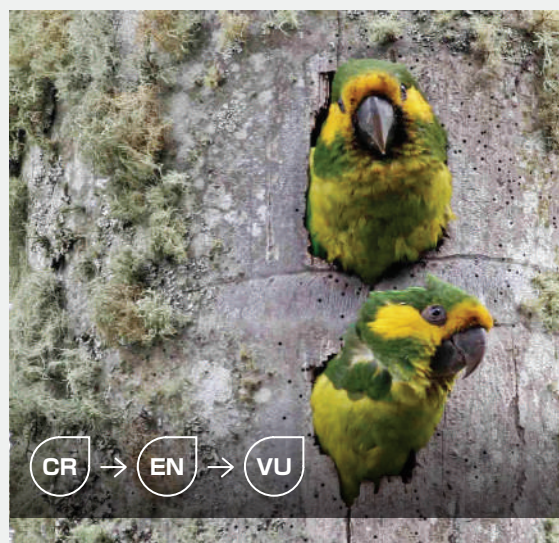
ケーススタディ

絶滅の危機から救われた12種 | ロロ・パルケ財団 (Loro Parque Fundación)

ロロ・パルケ財団 (Loro Parque Fundación) は、自然界で絶滅の危機に瀕していた12種のオウムを救いました。財団、その他NGO、専門家などのパートナーの協働による多大な尽力で、これらの種の回復が実現しました。最も深刻な事例としては、1999年に世界の個体数が22羽まで減少していたコスミレコンゴウインコ (*Anodorhynchus leari*) と、同年に82羽が生きていたキミミンコ (*Ognorhynchus icterotis*) です。ロロ・パルケ財団による個体数増加の取り組みは、これらの種がレッドリストの絶滅危惧**ランクの改善**という成果に反映され、この2種は、それぞれ深刻な危機 (CR) から危機 (EN)、または危急 (VU) へと変更になりました。



コスミレコンゴウインコ (*Anodorhynchus leari*)
写真提供 © ロロ・パルケ財団



キミミンコ (*Ognorhynchus icterotis*)

動物園と水族館が種の保全状況の改善に果たす役割

動物園と水族館は、種の減少を食い止めるための能力を培い、種の管理に関する専門知識と地域社会の関与を種の保全にもたらす重要な役割を担っています。さらに、繁殖、飼育管理、病理学、獣医学、保全医学、遺伝管理、地域連携と行動学、資金調達、研究、救助・野生復帰においても重要な役割を担っているのです。WAZA加盟の動物園と水族館が、種の保全状況を改善するために取り組む方法には、以下のようなものがあります：

- 1 動物、植物、および菌類の生息域外の個体群の飼育繁殖、知識の提供、管理を行う。
- 2 動物園・水族館の獣医学および病理学チームの技術と経験を活かして、野生個体群へ活用する。
- 3 野生個体群の補強を目的に、個体群を確保し、再導入やその他の保全目的の移殖に備える。
- 4 種の知識を広げるための研究および科学に基づく調査を実施し、そのための資金提供をする。
- 5 社会科学と提言活動を活用して、関係者や地域社会と協力し、種の生存を脅かす要因に対処する。
- 6 種の保全に向けた能力と資源を培い、現地での活動やパートナーを支援する。
- 7 絶滅危惧ランク引き下げに向けた明確な計画と道筋をもって、保全プログラムを支援する。
- 8 絶滅危惧種の状況改善を目的としたプログラムに資金と専門知識を提供する。
- 9 世界的な組織と連携し、動物園や水族館で飼育されている優先種に焦点を当て、効果的で影響力のある資金援助を実施する。



クロアシイタチ (Black-footed ferret)

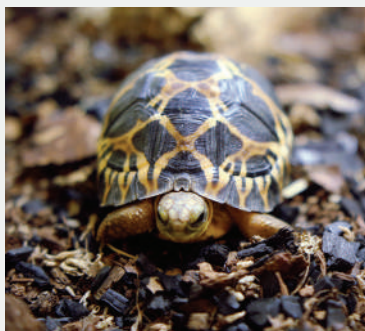
© U.S. Fish and Wildlife Service/flickr [CC BY 2.0]

ケーススタディ

インディアナポリス動物園「種を救うチャレンジ（ Saving Species Challenge ）」 | インディアナポリス動物園



フロリダカケス
(*Aphelocoma coerulescens*)
©インディアナポリス動物園



ハウシャガメの幼体
(Baby Radiated tortoises)
©Carla Knapp



アメリカアリゲーター
(*Alligator mississippiensis*)
©Mark Potter

2023年、インディアナポリス動物園は、動物種の存続に対し、測定可能で持続可能な影響を与えるべく大胆な取り組みを開始しました。「インディアナポリス動物園・種を救うチャレンジ（ Saving Species Challenge ）」を通して、これまで実証されている科学と起業家精神を融合させ、自然環境を改善する解決策を見出し、資金を提供し、自然保護という使命を果たすことを目指しています。

そして、絶滅の危機に瀕した動物種を救うための国際的な助成金について発表しました。

これは、IUCNレッドリストに掲載されている動物種の状況を改善することにつながる計画を立案・実行できる1団体に対して100万ドルの助成金を授与するというものです。

グーティサファイアオーナメンタル(*Poecilotheria metallica*)
© インディアナポリス動物園

効果的かつ影響力のある動物園・水族館の個体群管理が果たす保全の役割

個体群管理プログラムは、生息域外保全の重要な要素です。これは、動物園や水族館など自然生息域外の施設で、人間の管理下にある絶滅危惧種の個体群を保護・管理する取り組みです。これらのプログラムの主な目的のひとつは、遺伝的多様性を保ち生存可能な個体群を維持することです。それによって野生個体群への再導入、移殖、供給源として、あるいは絶滅の回避に役立てることができます。

IUCN SSC（国際自然保護連合・種保存委員会）は、「種の保全のための生息域外管理の利用に関するガイドライン」 を策定しており、個体群管理プログラムの実施に向けた枠組みを提供しています。このガイドラインでは、生息域外保全と生息域内保全の取り組みを統合することの重要性が強調されています。

個体群管理プログラムの重要な側面のひとつは、保全を目的とする種の個体がある場所から別の場所へ移す「保全のための個体の移殖」を検討することです。移殖には、絶滅したかつての生息地に動物を放つ「再導入」や、既存の個体群に動物を放ち、その規模や遺伝的多様性を高める「補強」などが含まれます。これらのプログラムがIUCNレッドリストにおける種の保全状況 の改善に貢献するためには、保全計画専門家グループ（CPSG）が開発した「ワン・プラン・アプローチ（One Plan Approach）」 を適用し、IUCNの「再導入およびその他の保全移送に関するガイドライン」 に従うことが不可欠です。このアプローチにより、生息域外プログラムを含むさまざまな分野や関係者の間で保全活動が統合・連携され、種の保全に対する影響を最大化することができます。

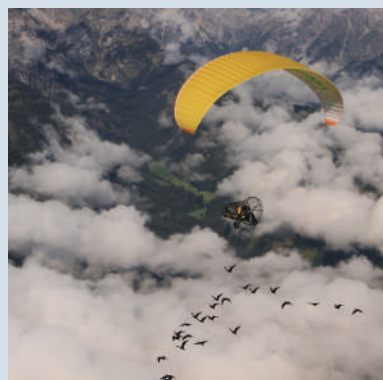
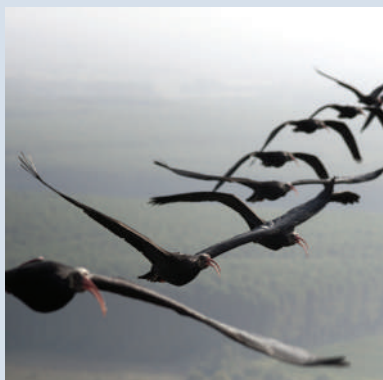
WAZA（世界動物園水族館協会）の個体群管理目標に向けて

2023年、WAZAの個体群管理委員会（CPM）は、「WAZA個体群管理目標（PMG）」の枠組みを策定するための第一歩を踏み出しました。

このPMGは、科学に基づいた個体群管理に関して地域間で共通の基盤を築くことを目的とし、WAZA加盟の動物園・水族館がその枠組みの実施を支援する役割を強化することを目指しています。



WAZAの個体群管理目標について議論するワークショップ終了後のWAZA個体群管理委員会のメンバー



ホオアカトキ（*Geronticus eremita*）© チーム・ホオアカトキ 保全・研究

ケーススタディ

絶滅の危機からホオアカトキを飛ばして救う | シェンブルン動物園 & チーム・ホオアカトキ保全・研究

ホオアカトキ（Northern Bald Ibis / *Geronticus eremita*）は、17世紀にはヨーロッパで局地的に絶滅していましたが、中央ヨーロッパでこの種を再導入するプロジェクトが始まりました。このプロジェクトの主な目的は、ホオアカトキに越冬地への渡りルートを生後1年目に教えることです。この画期的な取り組みは、局地的に絶滅した渡り鳥種を再導入しようとする世界で初めての試みです。

そのために、ヒナは動物園で孵化し、人間の里親によって人工育雛されます。この過程で、ヒナは飼育係に対する刷り込みがおきます。その飼育係が操縦する超軽量飛行機に追従して飛翔する訓練を行います。

ホオアカトキのヒナたちは飛行機を追いかけることで、イタリア・トスカーナの越冬地への渡りルートを学習します。

ホオアカトキが2～3歳になると、自力で繁殖地へ渡ることができるようになります。野生で生まれた若鳥たちは、仲間の成鳥に従って越冬地へ向かうようになり、渡りの伝統が継承され、種の存続が確保されるのです。



CR → EN

コウノトリ (*Ciconia boyciana*)

© Ltshears/Wikimedia [CC BY-SA 3.0]

ケーススタディ

日本で絶滅したコウノトリを再び空へ | JAZA (日本動物園水族館協会)

コウノトリ (*Ciconia boyciana*) は、1971年に日本で絶滅しました。絶滅前には、豊岡コウノトリ保護増殖センターや日本各地の動物園で飼育下繁殖が試みられましたが、日本の個体群による繁殖は成功しませんでした。

しかし、25年にわたる努力の末、ロシアや中国から導入されたコウノトリによる繁殖に成功しました。最初のヒナは1988年に東京都多摩動物公園で誕生し、その後、兵庫県立コウノトリの郷公園附属飼育施設コウノトリ保護増殖センターや他の動物園でも繁殖が進みました。

人間の管理下で飼育されるコウノトリの数が増加したことで、1992年に再導入計画が開始されました。生息地の復元活動のおかげで、現在では日本の野生下におけるコウノトリの個体数は300羽以上に増加しています。

一部の研究者は、**日本のレッドリスト**におけるコウノトリの分類を「絶滅危惧IA類 (CR)」から「絶滅危惧IB類 (EN)」へ**引き下げる**べきだと提言しています。

2026年には絶滅危惧 I A類から絶滅危惧 I B類へランクダウンされており、野生生息個体も550羽を超えています。



兵庫県立コウノトリの郷公園にて撮影されたコウノトリ (*Ciconia boyciana*) ©JAZA

03

「REVERSE THE RED (RTR)」を我々動物園・水族館へもたらそう

動物園と水族館は、種の保全状況やIUCNレッドリストについて、世界中の多くの人々が学び・情報を共有することができる場所です。さまざまな取り組みを通じて、野生生物が直面している脅威や、協力して取り組んでいる保全活動の重要性についての認識を高めることができます。

年間7億人以上の来園館者を迎える動物園と水族館は、IUCNレッドリストやさまざまな種の保全状況に関する情報を伝える、他にはない機会を持っています。

これにはいくつかの方法が考えられます。例えば、種別にIUCNレッドリストの情報を解説板に表示、体験を通じて学べる展示やテーマ別の生息地メッセージを表示、教育資料の作成、幼稚園から大学までの学生を対象とした教育プログラムの開発などです。その他の方法としては、動物の飼育や種の保全について、さらには、どのようにしたら生物多様性を守るのに貢献できるかを来園館者が動物園・水族館のスタッフから学べる動物関連のトークイベントなどがあります。

バルセロナ動物園では、イベリア半島固有の危機種であるスペイン・キリフィッシュ (*Apricaphanius iberus*) 267匹の野生への再導入に成功しました。

© BSM / バルセロナ動物園





ケーススタディ

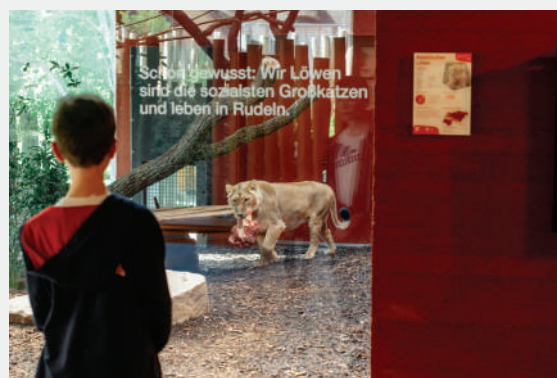
シュヴェリーン動物園のレッドリストセンター | シュヴェリーン動物園



シュヴェリーン動物園（Zoologischer Garten Schwerin）は、ドイツ北部のシュヴェリーン市に位置する動物園です。1956年に、飼育員1名とわずか17頭の動物で開園しましたが、年月を経て拡張され、現在では約140種、1,700頭以上の動物を飼育しています。園内は、シュヴェリーン湖に囲まれた風光明媚な公園としても知られています。

この動物園における教育活動は重要な活動で、その中心的な取り組みの一つとして、絶滅危惧種や国際繁殖計画に関するものがあります。さらに、シュヴェリーン動物園には動物園スクール（Zoo School）があり、毎年約1万人の児童・生徒が訪れています。

2021年には、IUCNの絶滅危惧種レッドリストに基づいた新しいテーマ施設「レッドリストセンター」が開設されました。このセンターは動物園の入口に位置しており、来園者が最初に目にする施設です。当センターでは、来園者にレッドリストとその分類について、またそれらを保全の手段としてどのように活用するのかを解説しています。



シュヴェリーン動物園のレッドリストセンター © シュヴェリーン動物園





© ウガンダ野生生物保全教育センター

社会の変化、私たちの社会的責任

行動変容プログラムは、動物園や水族館が保全や持続可能性を推進するための重要な手段です。来園館者に教育を行い、行動を促し、体験型の活動に参加してもらうことで、動物園や水族館は自然界に対して前向きな変化を促し、実際に貢献することができます。

動物園と水族館は、人類の生存における生物多様性の重要性や、動植物・菌類の本質的な価値について、来園館者や地域社会に普及啓発する重要な役割を担っています。また、持続可能な保全の推進にも貢献しています。一般的に行動変容プログラムは、教育・参加・行動という複数の側面からアプローチされ、来園館者に、環境への影響を減らし保全活動を支援するような、前向きな行動変容を促すことを目的としています。

動物園と水族館は、最新の教育資料や教育学、理念・手法に広くアクセスできる立場にあり、以下のような形式的・非形式的な教育の機会を提供することができます。（具体的には授業、サマーキャンプ、学校向けプログラムや校外学習、講演会、インターンシップ、オンラインプログラム、ウェビナー、家族向けの自然体験イベントなどが挙げられます。）

「**保全のための社会変革：世界動物園水族館保全教育戦略**」¹⁾では、動物園と水族館が教育的・社会的成果を達成するための推奨事項を紹介し、組織の使命達成を支援しています。



©チューリッヒ動物園



©ジョージア水族館



©セントルイス動物園



行動変容プログラムの主な目的：

- ① 来園館者自身の行動が、環境や自然界に与える影響を理解するのを支援すること。

これは、気候変動、生息地の破壊、天然資源の過剰利用などの問題について来園館者に伝え、彼らの行動がこれらの問題にどのように関与しているかを示すことを含みます。

- ② 来園館者が保全活動を支援するために必要な知識とスキルを身につけることを支援すること。

例えば、来園館者に炭素排出量の削減、水の節約、持続可能な食料生産の支援など、実践的なヒントを提供することが含まれます。

- ③ 来園館者に自然界との結びつきを奨励し、実際に自分で試してみる活動や経験を促すことによって、保全に対するより深い理解を得るようにすること。

これは、動物との交流体験や自然の生息地の探索、保全プロジェクトへの参加など、体験型の活動を通じて実現されます。

ケーススタディ

モンレー湾の持続可能なシーフード | モンレー湾水族館

モンレー湾水族館のシーフード・ウォッチ構想では、特定の漁業や養殖場が厳格な環境持続可能性基準にどの程度適合しているかを評価し、その結果に基づいて格付けを行います。消費者の選択に影響を与えることを目的として、可能な限り、「ベストチョイス」や「グッドオルタナティブ」に認証された水産物の購入、植物由来の代替品を選ぶように提案しています。

さらに、動物園、水族館、科学博物館、ネイチャーセンター、その他の非営利団体と連携し、持続可能なシーフードの普及活動を行っています。また、企業やレストランとも協力し、水産物買い付け業者、流通業者、小売業者、フードサービス関係者、シェフなどが環境に配慮した漁業・養殖業へ移行できるよう支援しています。

コヤカケネズミの再導入 ©ズーズ・サウス・オーストラリア

ブラジル・ミツオビアルマジロ (*Tolypeutes tricinctus*) ©Liana Sena

マヨルカサンバガエル (*Alytes muletensis*) の再導入 ©バルセロナ動物園

ペルシャダマジカ (*Dama dama mesopotamica*) ©エルサレム聖書動物園

ケーススタディ

アルバガラガラヘビの保全：AZA種保存計画からフローリン紙幣へ



© Adobe Stock



© Kalea Morgan/Unsplash

アルバガラガラヘビ（*Crotalus durissus unicolor*）の種保存計画（SSP：Species Survival Plan）は、1982年に設立され、アルバ島の本種とその独自の生態系を保全することを目的とした国際的なプログラムへと発展しました。

当初は飼育下での個体群動態を記録・分析するために作られたこの生息域外保全管理計画は、保全活動の成功事例となりました。このプログラムは、動物園などの施設に野生を代表する個体を提供するだけでなく、アルバ島の保全問題を監督する政府機関の設立にも貢献しました。SSPの取り組みは注目を集め、アルバ島政府の協力につながり、1992年には初の個体群生息地生存可能性評価（PHVA：Population and Habitat Viability Assessment）が実施されました。この評価により、野生および飼育下個体群双方の行動計画が策定され、島の19%を保護区域とするアリコク国立公園が設立されました。

SSPとアルバ島住民との協力は、生態学的研究、研修、管理上の提言、能力育成、ワークショップ、広報活動、教育活動などを通じて、地域社会の意識向上、認識の変化、人為的脅威を減らすことに成功し、顕著な保全成果をもたらしました。2014年までに、移殖個体群の遺伝的多様性は94%を超え、アルバ中央銀行が発行する25フローリン紙幣にその姿が描かれることで、このヘビの重要性はさらに認識されました。これは地域社会がこのヘビの保全に関心を持っていることを反映しています。AZA（アメリカ動物園水族館協会）コミュニティのアルバガラガラヘビの生息地保全への貢献は、動物園における爬虫類保全の模範となっています。



アルバガラガラヘビ（*Crotalus durissus unicolor*） © Josh More/Flickr

04

数を増やし、成育を助け、 REVERSE THE RED を進めよう!

可能な限り多くの種を保全し、Reverse the Red を進めるための行動には、同じ志を持つ仲間や、積極的に活動している保全団体・協力者たちと力を合わせる事が不可欠です。

可能な限り多くの種のためReverse the Red を 進めるための行動を起こそう

協力とパートナーシップは、保全活動の効果を最大化するうえで重要な役割を果たします。組織同士が資源、専門知識、知見を共有することで、共通の保全目標に取り組むことが可能になります。

Step 1 : 潜在的なパートナーを特定し、連携の機会を探りましょう。

地域・国内・国際レベルで、同じ目標を持つ保全団体に働きかけましょう。地域社会、企業、先住民の人々、政府機関などを巻き込み、保全活動に参加してもらうことが重要です。パートナーには、地元の学校や地域団体なども含まれる可能性があります。

Step 2 : 共通のビジョンと目標を設定しましょう。

対象種の Reverse the Red を進めるための具体的な行動、計画表、重要な節目や目標を明記した共同戦略を策定しましょう。この戦略は、各パートナーが専門知識や資源を提供しながら、協力して作り上げることが理想です。

Step 3 : 進捗状況を追跡し、実施された措置の効果を測定するためのモニタリング・評価システムを構築しましょう。

対象種の健康状態や個体群の状態、保全活動の効果を測定するための指標や評価基準を開発しましょう。

メキシコフトアマガエル
(*Agalychnis dacnicolor*)
© チェスター動物園

ケーススタディ

キャンベルキノボリアリゲーターカゲの保全 | オクラホマシティ動植物園

小型で樹上性のキャンベルキノボリアリゲーターカゲ（*Abronia campbelli*）は、科学者の間では絶滅したと考えられていました。国による保全の取り組みはなく、その存在が知られず、さらには地元の人々には「毒を持つ」と誤解されていたため、恐れられ迫害されてきました。

深刻な生息地の消失により、生息地は分断され、孤立した檜の成熟林がわずかに残されたのみとなりました。これにより、自然な移動や分散、遺伝子流動が妨げられ、個体数が減少しました。

この種の最初の記載地が唯一の分布域とされていましたが、最近になって新たに2か所の分布域が発見されました。これにより保全への大きな可能性が生まれ、生息地の再生活動を拡大するきっかけとなりました。

グアテマラ絶滅危惧種財団（FUNDESGUA）との提携により、主要森林樹種4万本の植樹を目標とする本プロジェクトは、オークランド動物園保全基金のパートナーからも支援を受けています。これにより新たな分布域の一つと原生地域との間の隔たりを80%まで縮める生物回廊の整備が可能となりました。

この取り組みと、生息地の回復と生息地住民の生産的な活動とを両立させることであり、この生産的な活動に地域の人々の発展がかかっているのです。



キャンベルキノボリアリゲーターカゲ（*Abronia campbelli*） ©オクラホマシティ動植物園

政府、地域社会、支援者、協力団体、来園館者との関わり

生物多様性への脅威に効果的に対処するためには、複数の関係者と連携しながら、政府や地域・国際的な意思決定者と協力することが重要です。動物園や水族館は、これらのステークホルダーとの関係性を活用して、保全政策の変更、法律、規制、基準の実施に向けた取り組みを推進することができます。国際的には、WAZAは、**絶滅のおそれのある野生動植物の種の国際取引に関する条約（CITES）**、**生物多様性条約（CBD）**、**移動性野生動物の保全に関する条約（CMS）** などを通じて、会員が変化を促す活動を支援することができます。

ケーススタディ

オーストラレーシア種保存センター | オーストラレーシア動物園水族館協会（ZAA）



ビクトリアニセマウス
(*Pseudomys novaehollandiae*)
© Doug Becker



ZAA CSSチーム
©オーストラレーシア動物園水族
館協会



オオフクロネコ
(*Dasyurus maculatus*)
© Michael J Fromholtz

ZAAは、WAZA / IUCN SSC（国際自然保護連合・種保存委員会）の「Reverse the Red」という世界的な取り組みの推進団体として、IUCN SSCの「種保存センター（CSS）」に指定されています。

ZAAは、IUCN SSCの「評価・計画・実行」モデル（**種保全サイクル**）に従い、種の保全に向けた重要な活動を支援しています。このアプローチは、ZAAのCSSチームによって実施され、地域の政府関係機関や、先住民族の共同体、学術機関、ZAA加盟の動物園・水族館、CPSG（保全計画専門家グループ）チームなどの関係者とともに計画を進めています。

ZAAのCSSは、種保全サイクルの「評価」と「計画」の分野に専念しており、一方で、決定された行動戦略は、ZAAメンバーが推進する保全計画を支援します。このモデルは、特定の種の保全プロジェクトにまだ積極的に関与していないZAA会員にも参加の機会を提供します。

政府関係機関との協力は非常に重要であり、評価結果の公式認定につながり、より多くの関係者の関与が確保されます。政府が承認した種の評価結果は、IUCNレッドリストや「Reverse the Red」の報告に活用されます。さらに、政府関係機関との共同評価・計画作業は、ZAAと政府との関係を大幅に強化し、ZAA会員にとって長期的な利点となっています。



Action Indonesia Dayの活動
(チェスター動物園)
© チェスター動物園



アノアとバビルサの救護訓練
(マカッサル)
© PKBSI



Action Indonesia 教育研修
© PKBSI

ケーススタディ

Action Indonesia : アノア、バンテン、バビルサの保全に向けた世界的な協力

2009年、インドネシア政府とIUCN SSCアジア野生ウシ専門家グループ（AWCSG）は協力し、アノア、バンテン、バビルサの国家種別保全計画を策定しました。この計画は、関係者の活動をこれらの種の保全に集中させるものであり、これらの分類群に対して生息域外保全個体群を維持することが推奨されました。

2015年には、IUCN SSCの専門家グループ、インドネシア環境林業省、そしてWAZAの枠組みを活用する国内外の動物園協会による国際的な協力により、「**Action Indonesia 国際種管理計画 (GSMPs)**」が設立され、保全活動が支援されました。

これまでに、インドネシアの機関から190人以上の実務者が飼育管理や輸送技術を習得し、150人以上の教育関係者が保全教育の能力を学びました。2019年から2022年の間に、4大陸にまたがる62の動物園や機関が「Action Indonesia Day」に積極的に参加し、インドネシアの動物園では、繁殖に関する推奨事項に従った結果、これまでに37件以上の繁殖に成功しています。

また、Action Indonesiaは、ジャワバンテン保全の優先地域であるアラス・ブルウォ国立公園において、初の園内全体にわたるバンテン個体群のモニタリング調査も支援しました。



第2回GSMP計画ワークショップ（2018年）参加者 © PKBSI



成功事例の共有

保全活動の成功事例を共有することは、動物園や水族館にとって、保全活動を推し進め、地域社会の支援づくりを行い、保全分野におけるリーダーシップを示すうえでの重要な手段となります。動物園や水族館は自らの活動がもたらす影響を広く示すことで、行動を起こすきっかけとなり、絶滅危惧種やその生息地、そして自然界全体に良い変化をもたらすことができます。

動物園や水族館が保全に貢献する効果的な方法のひとつは、成功事例を広く地域社会と共有することです。

保全活動の成功事例を共有することで、以下のような効果が期待できます。

- ① 保全活動の重要性に対する認識を高め、行動を促す**
これらの事例は、保全活動が絶滅危惧種、生息地、地域社会に与える影響を示し、協力と革新によって前向きな成果が得られることを証明します。
- ② 保全活動への地域社会の支援を構築する**
動物園や水族館が絶滅危惧種やその生息地を守るために行っている活動と、その成果を紹介することで、保全活動への地域の支援を得ることができ、人々が自然環境を守るための行動を起こすよう促すことができます。
- ③ 動物園や水族館が保全分野におけるリーダーとしての評価を高める**
動物園や水族館は活動の成果とその影響を示すことで、広く地域社会からの信頼と信用を得ることができ、世界的な保全活動における重要なパートナーとしての地位を確立することができます。
- ④ 動物園や水族館間の連携と知識共有を促進する**
世界中のさまざまな団体が行っている活動や、保全への取り組みから得られた教訓を紹介することで、動物園や水族館は知識と専門性を共有し、協力してさらに大きな成果を上げることができます。

- ・タロンガ動物園は先住民族の土地所有者らと協力しミニナガバンディクートの保全に取り組む © オーストラリア・タロンガ保全協会
- ・ワイルダー研究所チームが、ブリティッシュコロンビア州の再導入地に放流するために、温度管理されたクーラーボックスでキタヒョウガエルのオタマジャクシを輸送中 © ワイルダー研究所/カルガリー動物園
- ・ミニナガバンディクートの子ども © Paul Fahy © ロロ・パルケ財団

動物園や水族館は、IUCNレッドリストに掲載されている複数の種の絶滅危惧 **ランクの改善** に大きく貢献してきました。これは、種の保全に対して実質的な貢献ができる可能性を示すものです。

この短編ガイドや reversethered.org に掲載されている成功事例は、動物園や水族館が種の保全において果たす重要な役割と、連携した保全活動が絶滅危惧種の生存に前向きな影響を与える可能性を示しています。



あなたの成功事例を
WAZA事務局までお
寄せください

conservation@waza.org

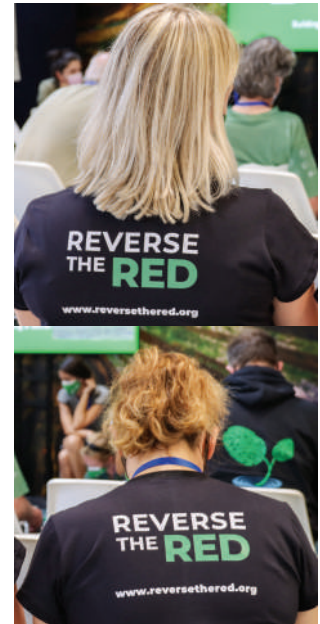
「Reverse the Red」イベントと記念日の開催・参加

Reverse the Red Day (リバース・ザ・レッド・デー)

2月7日は「Reverse the Red Day」として、世界中の機関や団体が保全活動の成功事例を共有・祝福する日です。

2023年2月7日、45の国・地域の動物園や水族館が参加する「Reverse the Red Day」が開催されました。実施された取り組みには、ソーシャルメディアでの発信やスタッフの関わり、そして、地域での活動などが含まれていました。

そして毎年2月7日は、世界中で「Reverse the Red Day」とし、さまざまな活動が行われるようになりました。各機関や団体は、ソーシャルメディアによる情報発信、対面でのイベントの開催、その他のコミュニケーションツールにより、情報を発信します。これらの活動は、保全活動の成功事例を称え、意識向上と行動を促進することを目的としています。



2021年マルセイユで開催された世界保全会議でのRtRのTシャツ@Kelly Griese



WAZA会員による2023年2月7日初開催RtRデーへの参加

「Reverse the Red」への誓い | ヨハネスブルグ動物園



2023年2月7日、「Reverse the Red Day」の初開催を記念して、ヨハネスブルグ動物園の全職員に赤いロゴ入りTシャツが配布されました。地域社会の関心を高めるために、動物園の保全活動を紹介する展示を含む職員イベントを開催しました。

イベントでは、口頭での誓約を行った後、全職員による書面での誓約も行いました。この取り組みの一環として、毎週金曜日に赤いTシャツを着用することを決め、現在も継続しています。この取り組みの目的は、来園館者との積極的な関わりを促進し、保全への献身的な取り組みを目に見える形で示します。

私たちの取り組みは動画として記録され、WAZAのInstagramアカウントで紹介されました。これにより、より広くメッセージを伝えることができました。



ヨハネスブルグ動物園の「Reverse the Red Day」イベント © ヨハネスブルグ動物園



ケーススタディ

さよならじゃなく、元気でいて！（Live Well! Not Farewell!）- 台北動物園の「Reverse the Red」展 | 台北動物園

台湾の人々に「Reverse the Red」という世界的な運動について学び、参加してもらうため、台北動物園は2021年から教育や解説の中にRtRの考え方を取り入れてきました。2022年12月1日、台北動物園は特別展「さよならじゃなく、元気でいて！（Live Well! Not Farewell!）- Reverse the Red」を開催しました。この展示は、RtRの考え方を地域社会に紹介し、在来野生動物の保全とのつながりを築くことを目的としています。

2023年2月7日に初めて開催された「Reverse the Red Day」を記念して、台北動物園は特別展のガイドツアーと2月限定のキャンプ形式の教育活動を開催しました。台北動物園の目標は、より多くの台湾の人々にRtR運動を支援してもらい、参加してもらうことです。



台北動物園の「Reverse the Red」展 - さよならじゃなく、元気でいて！（Live Well! Not Farewell!） © 台北動物園



世界種会議（ World Species Congress ） - 希望と行動の24時間

2018年、バンコクで開催されたWAZAの会議において、保全と絶滅の危機に対応するために「世界種会議」を開催することが決議されました。

そして2024年、第1回世界種会議が開催されます。この会議は24時間にわたる全世界を繋いだオンライン会議で、絶滅危惧種の保全に取り組む素晴らしい人々を紹介し、希望につながる取り組みを共有します。

すべてのWAZA加盟園館は、主な講演者情報の提供や保全状況改善事例の共有、データの共有、アウトリーチ活動や施設ベースのプログラムを通じた第1回世界種会議の周知などに参加することを呼びかけられています。

具体的には以下の参加方法があります。

- ① 世界種会議のスポンサーになる→communications@reversethered.orgに連絡
- ② 地域の運営委員会に参加する
→conservation@waza.orgに連絡
- ③ 絶滅危惧種の保全プログラムの詳細を共有する
→communications@reversethered.orgに連絡
- ④ 動物園や水族館でイベントを開催する
→寄付者、来園館者、会員、学校向けにイベントを実施。世界種会議のコンテンツを活用し、独自の内容を加えて並行開催する
- ⑤ 地元メディアに、世界種会議の一環として動物園・水族館の役割を広める
→communications@reversethered.orgに連絡
- ⑥ SNSを通じて寄付者や会員に向け、世界種会議を広報する
- ⑦ 地域社会の素晴らしい活動を誇りに思い、自園館全般での保全に関する活動やWAZA会員の取り組みを紹介する

参加方法の詳細については conservation@waza.org にお問い合わせください。

ワイルダー研究所・カルガリー動物園チームメンバーがバンクーバーマーマモットの保全計画の一環として撮影 © ワイルダー研究所・カルガリー動物園、デゼルトス諸島陸生カタツムリ © チェスター動物園、ミヤマオウム © ブラハ動物園、トゲスッポン（*Apalone spinifera*）© グランビー動物園

映画祭

希望と未来のある取り組みを伝えるために、利用可能なあらゆるメディアを活用しましょう。

自然保護映画祭を活用し、参加することで、動物園や水族館は自らの保全活動や成功事例を、環境保全に熱心な人々、自然愛好家、保全活動の支援者など、より広い層に効果的に伝えることができます。これにより、行動を促し、協力関係を築き、保全活動をさらに強化することが可能になります。

ケーススタディ

スコットランド王立動物学協会（RZSS）、自然保護映画祭で受賞 | スコットランド王立動物学協会（RZSS）



スコットランド王立動物学協会（RZSS）制作の映画『Standing up for the little guys（小さな命のために立ち上がる）』が、第1回エディンバラ自然保護映画祭において、「イノベーションとツール」部門で最優秀賞を受賞しました。

この映画は、イギリスで深刻な危機に指定されている種「マツハナアブ（pine hoverfly）」の保護に取り組むRZSSの活動を紹介しており、同団体の野生動物保全への情熱を示すものです。「イノベーションとツール」部門は、生物多様性と地球の保全に貢献する社会的・科学的・技術的・工学的な分野での卓越した進歩を称えるものです。

RZSSの保全プログラムマネージャーであるDr Helen Taylorは次のように述べています。

「イギリスでは10年以上、野生のマツハナアブの成虫は確認されていませんでしたが、私たちの団体の専任チームとプロジェクトパートナーが協力し、この種の生命線となる環境づくりに尽力してきました。これらの小さな無脊椎動物は、森林生態系において花粉媒介者や廃棄物の分解者として非常に重要な役割を果たしています。私たちの“小さな仲間たち”が、大きな変化を生み出していることが認められてとても嬉しいです。」

写真 © RZSS:

Dr Helen Taylor(RZSS保全プログラムマネージャー)が幼虫を野生に放す準備をしている様子

Jess Wise, Dr Helen Taylor, Dr Helen Senn

Dr Helen Taylorがマツハナアブの幼虫を放す前に手に持っている様子

マツハナアブ(*Blera fallax*)



Reverse the Red に積極的に参加することで動物園や水族館は、生物多様性の損失を食い止め、絶滅危惧種を保全するうえで重要な役割を果たすことができます。

この短編ガイドでは、WAZA会員が

「Reverse the Red」に参加するためのさまざまな手順を紹介し、顕著な貢献をしている団体の成功事例を共有してきました。

これらの戦略を実行することで、会員施設は行動を促し、希望を広め、地球の貴重な生物多様性の保全に具体的な変化をもたらすことができますのです。

共に力を合わせ、絶滅危惧種にとって明るい未来を築いていきましょう。

みんなで力を合わせて、
**REVERSE
THE RED**
を成し遂げましょう

© Firosh Photography/Unsplash

行動を起こそう

05

WAZA決議77.2「生物多様性の成果を変える」¹⁾に基づき、この段落では「Reverse the Red」を支援するために、組織が取り組みを始める際の概要と確認項目を紹介します。

行動 1

IUCNレッドリストを、保全状況を示す主要な指標のひとつとして認識し、保全状況の改善を成功の重要な指標としましょう。

推奨事項

- ✓ 国内および地球規模での種の評価を可能にするための資源と支援を**提供**すること。
- ✓ 保全プログラムの成果を明確な目標に基づいて**評価**すること。特に、絶滅危惧種の状況を改善し、レッドリスト評価を実際に「逆転」させることを目標のひとつとして認識すること。
- ✓ 保全プログラムの役割や目標を特定する際に、レッドリスト評価を**活用**すること。
- ✓ 種の保全状況を改善する可能性に基づいて、保全プログラムを**支援**すること。

2019年にルーマニアで再導入されたヨーロッパバイソン
©ベルリン動物園

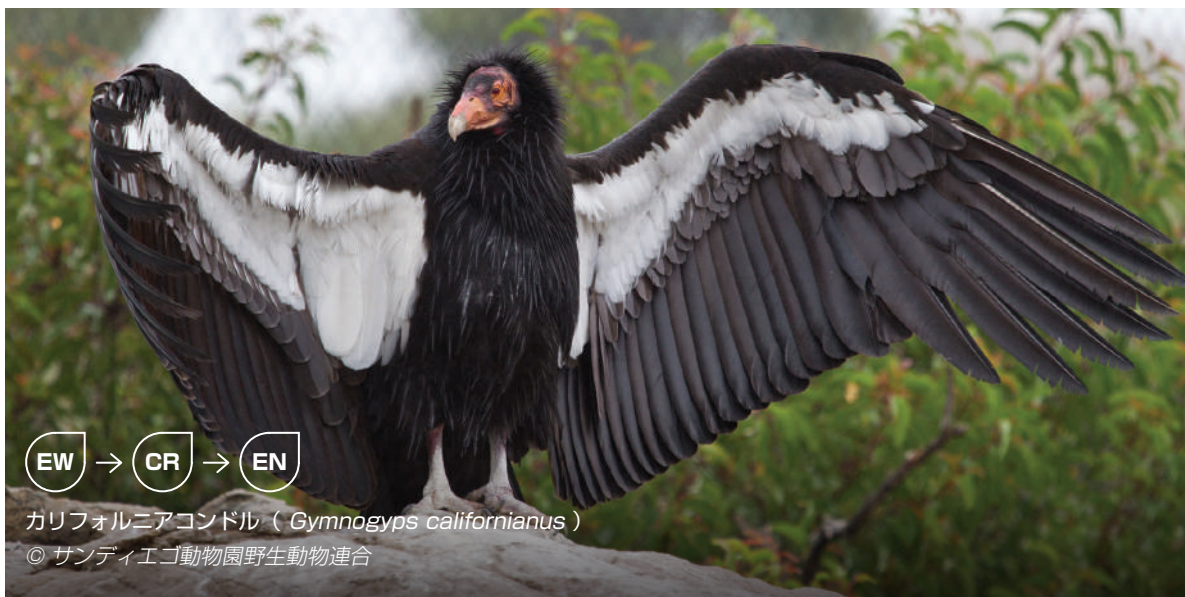


行動 2

種の保全状況を改善するために行動を起こしましょう。

推奨事項

- ✓ 保護・飼育している種のIUCNレッドリストの状況について、来園館者に働きかけ、関心を高めること。
- ✓ IUCN SSC「種保全のための生息域外管理の利用に関するガイドライン」を適用し、生息域外保全の必要性、知識、機会が特定されている種について、個体群管理プログラムを**拡大**し、IUCNレッドリストの保全状況にプラスの影響を与えること。
- ✓ CPSG（保全計画専門家グループ）が策定した「ワン・プラン・アプローチ」を適用し、IUCNの「再導入およびその他の保全移殖に関するガイドライン」に準拠し、保全移殖個体を提供する生息域外保全計画〔または生息域外個体群〕を**確実に**実施すること。
- ✓ 政府、行政機関、その他の意思決定者との対話を通じて、地域・国内・地球規模での脅威への対応に**参加**すること。また、来園館者、パートナー、会員と情報や機会を共有すること。
- ✓ 人為的な生物多様性への脅威に対して、来園館者やパートナーとともに**取り組む**こと。
- ✓ 絶滅危惧種の状況改善を目的としたプログラムに対して、資金や専門知識を**提供**すること。
- ✓ 「Reverse the Red」運動と世界的な行動喚起を広めるために、保全プログラムや活動を**共有**すること。
- ✓ 実施した活動の効果に関するデータを**収集**し、WAZAおよびReverse the Redに共有すること。





ジョージア水族館での教育プログラム



ジョージア水族館の大水槽

行動 3

2023年をできる限り多くの種に対して「Reverse the Red」の行動を起こす年にするために、仲間や保全活動団体と連携しましょう。

推奨事項

- ✓ 絶滅危惧種の状況改善に成功した事例を「Reverse the Red」に**共有**すること。
- ✓ 全世界での Reverse the Red Day を含む Reverse the Red のイベントや記念行事（種ごとの啓発キャンペーンおよび来園者へその動物の背景を伝える取り組み（ストーリーテリング））に**参加**すること。
- ✓ 政府、地域社会、支援者、パートナー、来園館者の参加を**呼びかける**こと。

メジロザメ（*Carcharhinus plumbeus*）
写真提供©ジョージア水族館



WAZA

*World Association
of Zoos and Aquariums*



www.waza.org



**REVERSE
THE RED**



www.reversethered.org



**JOIN US,
TOGETHER
WE CAN**

**REVERSE
THE RED**